

人と動物のより良い関係

～石川と福井で活動している動物ボランティアの方々にインタビュー～



ショップ等にも支えられているようです。「協力して下さる方々も現在30名ほどに増え、それぞれができる範囲で、里親が見つかるまでの一時預かりや、「保護中の犬の散歩係」を引き受けてくださったり、ポスター貼りやバザーの協力など、本当に助かっています。でも、常時



石川県 カン太ママのドッグレスキュー 池田さんと協力ボランティアの方々
石川県の保健所から毎週、処分されようとしている犬達を譲り受け、新しい飼い主(里親)を捜すという活動を個人で行っている。
http://www.geocities.jp/kanta104_98

保健所に収容された犬達に新しい幸せを。

善意の気持ちをあつさり裏切られたことも。

「生まれたときから家に犬がいる環境でした」と言うのは、「カン太ママのドッグレスキュー」の池

田さん。「小さい頃から、捨てられている動物を家に連れ帰り、飼ってくれる人を探していた」そうです。

そんな池田さんが石川県の保健所(センター)の存在を知って、「見てみたい」として、「何かできないか」と思ったのがカン太ママのドッグレスキューの活動のきっかけ。インターネットで知った大阪の里親探しの犬の一時預り等もしたそうです。

そして、ご自分でも、センターで処分を待つだけの犬達(3匹)を譲渡してもらい、インターネットで里親探しを始めたそうです。ところが、里親になってくれると言っていたのに、犬を送り返されたり、その後の犬の消息が不明になったりして、「結局ネットは怖いと感じました。それで、近場で探そうと思ったんです」。

理解してくれるあたたかいサポーターに恵まれ...

02年の3月から毎週木曜日にセンターに通い(金曜が処分の日なので、1、2匹から、多いときは10数匹の犬を譲渡してもらい、自作の里親募集のポスターや自身のHPなどで告知し、現在までに500匹以上の犬達が新しい飼い主さんの元へ。

時には、「タダで犬をくれる人」のような勘違いをされることもあったとか。しかし、今では活動の主旨に賛同した協力ボランティアの方々や動物病院、トリマー、



たくさんの人達の協力の下、新しい飼い主を待っています。

10匹くらい、多いときには50、60匹の犬を保護するので、里親さんが見つかるまでにかかる食費等の費用や、活動資金と、金銭的な負担は大変大きいのです。なので、広報の意味も込めて、年に数回、バザー等のイベントを行っています。イベントでは、里親募集やパネル展も行っています」と、苦勞の二面も。

「今、野良犬がいらないと思われているかも知れませんが、それは違います。また、どんな飼われ方をしていたのかと思うくらい悲惨な状況の犬がいたり、明らかに虐待の末、センターに持ち込まれた犬など、悲しい現

実は多くあります。それをみなさんにぜひ知っていただきたいし、今飼われている方には責任を持って、最期まで愛情を持って飼って欲しいと思います。今後、無駄な繁殖や望まない妊娠が少しでも減って、殺処分ゼロになつてほしいと願う活動を続けます」と、池田さん。

「カン太ママのドッグレスキュー」は、池田さんの個人の活動でありグループではありません。そのため、サポートして下さる方々の協力は必要不可欠で、苦勞も多いようです。

たくさんの方々の理解と協力が得られることを祈っています。



少しでも現実を伝えたいと、パネル展も実施。